市民への公共交通ヒアリング結果

■公共交通ヒアリングの対象自治会(8ページ参照)

次の全てに該当する自治会の会長を対象に、地区ごとに実施

- ・市街化調整区域にある自治会
- ・鉄道駅から半径1キロメートル圏外、または、バス停半径300メートル圏外の区域をもつ自治会
- ・既存集落として位置付けられている区域をもつ自治会
- (注) 新方地区については、平成26年度にミニバスの試験運行に伴いアンケート調査を実施しているため、今回の公共交通ヒアリングの対象外とした。

■共通して比較的多かった意見等

- ・現在は自家用車等を使っているが、将来的なこと(高齢化)を考えるとバス路線等の公共交通網の整備が必要である。
- ・バス路線の設定は利用者を明確にして設定するべき (通勤通学・高齢者等の通院等)
- ・バス路線等を通すのであれば、通勤・通学者か高齢者かのターゲットを明確にするべきである。
- ・バス停のそばに駐輪場等が整備されればバスを利用しやすくなる。
- ・市は行政サービスの一環として、採算性だけに捉われないサービスを実施 すべき

■各地区における意見等

別紙のとおり(2ページから7ページを参照)

■ヒアリング結果への対応

- ・高齢者の移動支援は、福祉部と連携して、中期的に検討を行う。
- ・公共施設を中心にサイクルアンドバスライドを検討する。
- ・鉄道、バスの利用圏域内の市民、既存のバス事業者との公平性を考慮しながら、計画に基づき、新たな公共交通に関するガイドラインを作成し、協働により取り組む。

大袋地区(平成27年7月21日)5名出席

- ・日常生活での交通手段は、ほとんどが徒歩か自転車。
- ・主な外出先は、駅やスーパー、北部市民会館。
- ・スーパーでは、とくにイオンせんげん台店へ行く人が多い。
- ・イオンの無料送迎バスをよく利用する。
- ・雨の日など天気が悪い日や、荷物が多いときは、徒歩や自転車は危ない。
- ・高齢化が進んできたため、自転車への不安感を感じる人が増えているため、 バス路線が あると助かる。
- ・運転免許返納の時期を迎えた人にとっては、バスがあれば返納しやすい。
- ・バスが通れる道が少ない。区画整理事業地内の広い道路が開通したとして も、 訪れる店などがなければ乗る人もいないと思う。
- ・タクシーは価格が高く、ほとんど利用しない。利用は雨の日や急病時などに 限っている。
- ・交通手段の一つとして、バスがあると助かるし、今後の高齢者の移動確保の ためにシルバーパスなどのサービスも期待したいと思う。

荻島地区(平成27年7月24日)6名出席

- ・南荻島地区は、南北に長くエリアも広いので、地域ごとで傾向が異なる。
- ・長島地区は、東川口駅を利用する方が多い。
- ・買い物など生活圏はほとんど東川口駅周辺と浦和美園イオン。
- ・東川口駅までは、徒歩約20分、自転車、車での送迎の移動がほとんど。
- ・東組自治会は、車の利用がほとんど。
- ・今後のことを考えると、2本/1 h 程度のバスが欲しい。
- ・買物は北越谷周辺。病院は誠和病院や獨協病院が多い。
- ・砂原自治会は、水上公園行きのバス路線が充実しており、特に不便を感じていない。
- ・若い人はバスより自転車で北越谷へ行っている。
- ・新田自治会は、車移動がほとんど。女性の自転車利用は多い。 買物はロジャースが多い。
- ・今後、車を手放す時は市の支援がほしい。
- ・曜日指定での運行など工夫が必要か。
- ・急行が止まらず、各駅は北越谷止まりで大袋駅は、鉄道の利便性が好まし くない。
- ・イオンの無料送迎バスが非常に便利。
- ・若い人たちヘバスの利用促進が必要。
- ・バス停に駐輪場があると利用者も便利ではないか。
- ・行政サービスの一環として福祉の観点からも考えてほしい。

桜井地区(平成27年7月27日)5名出席

- ・せんげん台駅、武里駅の利用者が多い。移動手段は自転車・車がほとんど。
- ・現在は交通に関してはあまり不便と感じてはいない。
- ・バスを使う人もいるが使っていない人のほうが多い。
- ・今後、運転免許証を返納する予定の方がいると聞く。返納後の移動方法について悩んでいる人も多い。
- ・市民の要望を受け民間バス路線が開設され、利用者が少なく赤字となり、 それを行政が支援するというのは、好ましくないと考える。
- ・民間バスについては、茨急の平方循環は利用者が多いように感じている。
- ・平方地区では、買物はほとんどの人がベルクスを利用。 セブンタウンの利用 者も次に多い。
- ・平方公園の事業の進捗と併せてバス路線の整備を検討してほしい。
- ・バス会社やタクシー会社の接客のサービスの質や運行情報などの周知も大切と思う。
- ・公共交通に関する計画では、道路整備や交通安全の観点も考慮したものとするべきと思う。

增林地区(平成27年7月28日)6名出席

- ・日常の移動はほとんどマイカーである。
- ・タクシーは飲酒時にたまに利用する。
- ・平方東京線にバスがあれば利便性がかなり上がると思う。
- ・コミバスが事業者との競合になるのであれば、ワゴン車をバス停まで運行させればよいのではないか。
- ・すべてのバスがパスモ等の IC が使えると便利。
- ・今後は高齢化が進むのは明確なのだから今より改善しなければならない。
- ・有料でもいいので、バス停周辺に駐輪所があれば便利。(特に増林小学 校前)
- ・必要な時間に数本だけでも良いのでバス路線を通してもらいたい。

大相模地区(平成27年7月29日)6名出席

- ・自家用車等を利用しているので、基本的に公共交通に不便を感じていない。
- ・JR 越谷レイクタウン駅周辺を循環するバス路線があれば便利。
- ・高齢者はバス路線が近くにないと、買物・通院等の際の生活が不便になる。
- ・通勤、通学は家族が駅まで送り迎えしているか、自転車で駅まで向かっていることが多い。
- ・雨天時は特に車による送迎が多い。
- ・通勤、通学と通院等の高齢者のどちらを対象とするかで運行計画も変わってくると思う。

出羽地区(平成27年7月30日)8名出席

- ・日頃の移動は自家用車か病院が実施している送迎バス。
- バスがないと不便である。
- ・ある程度の運行頻度で運行するバスがあると良い。
- ・普段利用する駅は、越谷駅・新越谷駅・蒲生駅・東川口駅を目的によって使い分けている。
- ・バス路線が通ってもすぐに大勢がそれを利用することは難しい。しかし、利用 は徐々に増えていくはずなので、バス事業者は短期間での採算だけで考慮す るべきではない。
- ・国道 4 号線の東側まで、グローバル交通等のバス路線があるのだから、既存のバス路線を延伸するという視点で考えて欲しい。
- ・高齢者の移動はバス利用券の交付などをすれば良い。

公共交通ヒアリングの対象自治会

